

社会貢献



伊藤忠商事は地球的視野に立って「良き企業市民」として果たすべき役割を自覚し、地域社会、国際社会との調和を図り、持続可能な社会の実現に貢献しています。

地域社会及び国際社会と持続可能な社会を実現するため、5つの重点分野からなる「社会貢献活動基本方針」を定めて活動しています。

社会貢献活動基本方針



1. 世界の人道的課題

伊藤忠商事は、グローバルに事業を行う企業として、世界における人道的課題に積極的に関わり、豊かな国際社会の実現に貢献します。



2. 環境保全

伊藤忠商事は、環境保全活動を積極的に行い、社会の持続的な発展に貢献します。



3. 地域貢献

伊藤忠商事は、良き企業市民として地域社会との良好な関係を構築し、地域社会との共生を図ります。



4. 次世代育成

伊藤忠商事は、次世代を担う青少年の健全な育成を支援する活動を行い、心豊かで活力ある社会の実現に貢献します。



5. 社員のボランティア支援

伊藤忠商事は、社員一人ひとりが行う社会貢献活動を積極的に支援します。

社会貢献の主な活動



世界の人道的課題



環境保全



地域貢献



次世代育成



社員のボランティア支援

東日本大震災復興支援



世界の人道的課題



地域貢献



社員のボランティア支援

2011年3月に発生した東日本大震災の復興に向けて、長期的な視点で支援活動を行っています。

■ 社員ボランティア支援

2011年5月から、社員がボランティア活動に参加しやすくするため、ボランティア休暇を3日から5日に拡充し、交通費/現地滞在費などを会社から補助する制度を実施し、2012年6月末までに延べ120人が利用しました。

2012年2月には社員の発案によるバレンタイン募金や3月には1周年募金を全社規模で行い、被災地の現状をパネルで伝えるなど、継続支援の重要性を共有しました。集められた募金は会社も同額をマッチングし、(公社)日本国際民間協会を通じて学校再建支援に、(公財)伊藤忠記念財団を通じて被災地の文庫助成に、それぞれ活用されました。2012年1月には、(社)日本貿易会を通じて、被災3県に新たな支援として「震災孤児・遺児支援募金」を抛出いたしました。

参加社員ボランティアレポート (抜粋)

伊藤忠ケミカルフロンティア(株) 出向 安良 雄一 (2012年2月参加)

「おかげさまで物資は足りている。足りないのは継続的な人的支援。最初のうちは本当に大勢の人が来てくれたが、時間とともに減ってしまった。復興までの道りは遙か彼方で、今のままでは何年かかるか予測すらできない」…今回お聞きした陸前高田や気仙沼の人達の声だった。人手=我々が等しく持っている最もベーシックなものが、今一番必要なのだ。会社の同志がお互いに信頼のもと結束し、ひとつの仕事に取り組んだときのパワーは、間違いなく計算上の人力を超える。またぜひ参加したい。



ボランティアメンバーと

■ 復興支援サイトの開設

東日本大震災に関連する伊藤忠グループ及び社員の支援活動の状況を共有するため「東日本大震災復興支援サイト」を社内イントラネットに2011年5月に立ち上げました。

同サイトでは、伊藤忠グループによる支援状況をはじめ、社員ボランティア募集情報、ボランティア体験記、東北支社からの現地情報などを定期的に発信し、長期的な支援活動に向けた社員の意識醸成に努めています。



■ 株主のみなさまとの被災地支援活動

2011年度から伊藤忠商事の株主宛情報の電子化にご承諾いただいた株主様に、「株主総会招集ご通知」等の印刷物の郵送を電子メールに切り替え、それにより節約される用紙代・郵送料等に伊藤忠商事も同額を加えて、伊藤忠記念財団が行う文庫助成事業「子どもの本100冊助成」に寄付する取組を開始しました。

2011年度は7,500名(2012年3月末現在)を超える株主様からご賛同をいただき、東日本大震災の被災地で活動されている13のボランティア団体へ、合計15セット(1セット=100冊)の児童書を、寄贈いたしました。

寄贈先: ちゅうりっぶ文庫(福島県南相馬市)、保育ママの会グランマ(岩手県紫波郡)、絵本読み聞かせの会おむすびころりん(宮城県柴田町)など13団体。

伊藤忠記念財団への支援



伊藤忠商事は、1974年に設立した（公財）伊藤忠記念財団を通じて、「次世代育成」の支援を続けています。伊藤忠記念財団は、2012年に公益財団法人に移行し、現在は「子ども文庫助成事業」及び「電子図書普及事業」を柱に子供たちの健全な成長に寄与する活動を行っています。

■ 子ども文庫助成事業

「子ども文庫助成事業」では、2011年度は通常の子どもの本購入助成や、子どもの本100冊助成等に加えて東日本大震災の被災地にも緊急支援を行いました。

子ども文庫 助成内容

	助成件数
子どもの本購入費助成	37件（内 海外 1件）
病院施設子ども読書支援購入費助成	8件
子どもの本100冊助成	32件（内 海外 11件）
日本人学校／補習校図書助成	52件（内 海外 52件）
東日本大震災被災地 緊急支援	6件
合計	135件（内 海外 64件）



財団から送られた本を持つグアテマラ日本人学校の生徒たち

■ 電子図書普及事業

2010年度より開始した、通常の書籍を読むことができない様々な障害のある子供たちのためのパソコン等を利用した「電子図書普及事業」は、より多くの児童が更に読みやすくなるように様式を変更、38作品を全国、501か所の特別支援学校などに無償提供しました。

災害支援義援金寄付



人道的見地より、災害時の義援金拠出・物資の提供を行っています。現地の支店・事務所とも連絡をとりながら下記の支援を実行しました。

■ 最近の義援金拠出例

タイ 洪水	¥30,000,000
トルコ 地震	¥5,000,000
フィリピン 台風	¥5,000,000

マニラ麻農園リハビリテーション・プロジェクトを支援



1912年に開設したマニラ支店が100周年を迎えるのを記念し、6月にフィリピン中部のソルソゴン州農村地帯においてマニラ麻農園リハビリテーション・プロジェクトの支援について、フィリピン繊維産業開発局及び地元の農業組合であるSt.

Ann's Family Service Cooperativeと協定を締結しました。2014年3月までに実施予定の90ヘクタール分（約14万4千本）のマニラ麻の植付と栽培に必要な資金の全額である200万円を拠出します。また、本プロジェクトを通じて年間18トンのCO₂吸収が見込まれています。



NGO国境なき子どもたち（KnK）のフィリピンでの青少年支援施設サポート



開発途上にある国々のストリートチルドレンや大規模災害の被災児等を支援するNGO「国境なき子どもたち」（KnK）の活動を支援しています。2009年12月11日、当社の支援により、フィリピンのマニラ郊外に青少年自立支援施設「若者の家」がリニューアルオープンされました。2009年9月にフィリピンを襲った台風の際に、家を無くした子供達等が避難所として一時的に利用していました。現在、この施設を通し、年間約1,000名の青少年へさまざまな支援が行われています。



「若者の家」



当社マニラ支店100周年の式典に参加する子供たち

フィリピンからのご報告（KnKより）

「若者の家」を中心として、フィリピンにおけるKnKの支援活動はますます広がりを見せています。「若者の家」には現在14人の子供達が暮らす他、コンピューターの技術訓練、青少年育成プログラムや母親層を対象とした啓発セミナーなどに毎月活用されています。今後も「若者の家」を拠点に、引続きコミュニティベースの活動を拡大し、青少年とスラム住民への支援を実施します。



KnKのメンバーと

WFP 国連世界食糧計画への支援



世界の飢餓・貧困問題を少しでも解消するため、国連の食糧支援機関であるWFP 国連世界食糧計画の公式支援窓口である国連WFP協会の評議員となり、さまざまな活動に参加しています。

2012年5月に横浜で開催された子供の飢餓の撲滅キャンペーンである「ウォーク・ザ・ワールド」に伊藤忠商事及び伊藤忠グループ会社社員が参加しました。また、東京本社で、WFPの活動を紹介するパネル展や募金活動を定期的に行っています。



子供の飢餓の撲滅キャンペーン「ウォーク・ザ・ワールド」に参加

途上国と先進国の食のアンバランスを解消する「TABLE FOR TWO」（TFT）



対象ヘルシーメニューを食べると、1食あたり20円を寄付できるTFTを東京・大阪・名古屋の各社員食堂で実施しています。集まった寄付金は、TFT事務局を通じWFPの学校給食プログラムに使用されます。

キッズニア東京に環境パビリオンをオープン



伊藤忠商事は「次世代育成」と「環境保全」の観点から2012年4月にこども向け職業体験施設「キッズニア東京」に環境パビリオン「エコショップ」をオープンしました。

「エコショップ」では世界的な環境活動「MOTTAINIAキャンペーン」をテーマに、環境素材を使ったマイ風呂敷、エコバッグ、マイ箸づくりなど自分だけのオリジナル商品を製作できます。

また、こども1人の参加ごとに、植林用の苗木1本分の費用がケニアの植林活動である「グリーンベルト運動」に寄贈されます。「エコショップ」での体験を通じて、こどもが楽しみながら「ものを大切にする優しい気持ち」や「世界の環境問題」を身近に感じ、自らすすんで解決に参加する意識の醸成につながることを目指します。



マイ風呂敷、エコバッグ、マイ箸づくりを通して楽しみながら環境を学ぶ

伊藤忠野球教室



青少年育成の一環として障がいのある子供達に、さまざまなことに挑戦する機会を与えたい、自分の可能性を見出す機会を創出する手助けをしたいとの考えのもと、2007年より野球教室を開催しています。

元ヤクルトスワローズ投手の矢野講師より、スポーツマンシップのお話や基礎的な動きなど、家庭での練習ではなかなか身につかない基本から、ノックのとり方や投球練習などの実践までを教えていただきます。指導のボランティアとして、伊藤忠商事相互会野球部に所属する社員もボランティアとして参加しています。参加した子供からは「初めての道具を使ってうれしかったです。これからもっと練習したいです。」などの感想があり、子供達をはじめ保護者など参加者からも大変好評をいただいています。



2011年12月「第5回伊藤忠野球教室」の様子

青山通りの地域清掃活動を実施



東京本社近辺で、社員による地域清掃活動を実施しています。地域社会の一員として、地元自治会や近隣の他企業の皆さんと協力して清掃や啓発物配付を行っています。

発展途上国へ「絵本を届ける運動」



シャンティ国際ボランティア会の「絵本を届ける運動」を実施しています。

日本の絵本に、カンボジアなどの現地の言葉の翻訳シールを貼り、プレゼントをします。絵本を楽しみながらボランティアができる活動で、男女を問わず、さまざまな年齢の社員が絵本と取組んでいます。

「スワンペーカーリー」のパン販売



2008年5月より、毎週水曜日に「スワンペーカーリー」のパンを東京本社の社員食堂にて販売しています。スワンペーカーリーとは、障がいを持つ人々に適正な賃金での雇用を促進する目的で、ヤマト財団により設立されたペーカーリーです。当日販売されるパンはあっという間に完売するほどの人気となっています。

社会貢献レポート（2011年4月～12月）

4月の活動

■ 東日本大震災被災地支援の「うるうるパック」袋詰め作業に参加（東京）

4月5日、東日本大震災の被災地に送る「うるうるパック」の袋詰め作業が東京で行われました。「うるうるパック」とは女性向けの化粧品や子供たち向けの文房具などの支援物資を、被災地で配りやすいように一人分ずつセットにしたものです。作業には伊藤忠グループから6名の社員が参加しました。



■ 2011新入社員 震災支援プロジェクト

2011年度新入社員研修では、伊藤忠商事としてできる東日本大震災の被災地支援について、14のグループに分かれて具体的なプロジェクトを検討・提案しました。新入社員同士の投票により4つの提案が選出され、小林会長を含む審査員の前で発表する最終選考に進みました。今後、伊藤忠記念財団と新入社員によって具体的な施策をつめ、最終的な支援活動として実現していきます。

■ 韓国伊藤忠社員が「次の世代に向けた植林」に参加

4月16日、韓国伊藤忠株式会社の社員、家族、客先、あわせて26名が植林ボランティアに参加し、1人4本ずつ海松を植えました。海松の植林は海から吹いてくる風と埃を防ぐのに役立ち、地域社会や環境への貢献になります。参加者全員、やりがいを感じられた1日となりました。



■ 「アースデイ2011東京」のブースにボランティア参加

4月23、24日の二日間、代々木公園周辺を会場として、地球の環境を考えるイベント「アースデイ2011東京」が開催され、多くの団体が出展しました。伊藤忠からは4人の社員が、地球温暖化防止を呼びかけるNPOのブースに参加し、来場者に家庭でできる節電を説明したり、竹キャンドルを配るなどの活動をしました。



5月の活動

■ 東日本大震災被災地支援の「うるうるパック」袋詰め作業に参加（名古屋）

5月7、8日、東日本大震災の被災地に送る「うるうるパック」の袋詰め作業が名古屋でも行われました。名古屋支社からは家族も含め、8名がボランティアとして協力しました。子供たち向けの文房具やお弁当箱などが入った2,000個の「うるうるパック」は、宮城県七ヶ浜町へ送られました。



■ ふれあい自然観察部会 目黒自然教育園

5月15日、目黒自然教育園にて自然観察会を行い、伊藤忠グループから12名が参加しました。生態学セミナー「生死を分ける光の奪い合い」に参加した後、園内で自然観察を行いました。参加者からは「目黒にこんなに自然豊かなところがあるのを知りませんでした。」との感想が聞かれました。



■ 第1回 さいたま農村ボランティア（田植え）

5月22日、今年1回目の農村ボランティアには伊藤忠グループ社員とその家族41名が参加し、田植えを行いました。この活動は1年間のお米の無農薬栽培を通じて、お米作りの大変さや農業の重要性を親子で理解する目的で実施しています。



6月の活動

■ 中国人大学生の短期ホームステイに協力

伊藤忠商事では年に2回、中国人大学生訪日代表団の短期ホームステイに協力しています。今回は6月4～5日の土日2日間、社員の自宅で1名の学生を受け入れました。



■ 東日本大震災「企業人ボランティア」に社員が参加

伊藤忠商事は、ボランティア活動を希望する社員への支援の一環として「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」が主催する、「企業人ボランティアプログラム」を社員に紹介するとともに、参加費の補助を実施しています。6月には第一弾として、7名の社員が岩手と福島でのプログラムに参加しました。



■ 港区立青山小学校3年生校外授業「高いところからわが街を見る」

毎年、地元の青山小学校3年生の校外授業受け入れに協力しています。今年は6月9日に21名の小学生が来社、ビルの最上階より街を観察してもらいました。



■ 2011新入社員 震災支援プロジェクト ～みんなの思いを「しおり」にのせて～

4月の新入社員研修で最終選考に残った4つの提案の中より、メッセージや絵入りのしおりを作って本と一緒に被災地の子供たちに贈る「みんなハッピープロジェクト」の実施が決まり、作業を進めてきました。6月17日、その第一便として福島県郡山市の「たんぼぼ保育園」に新入社員からのメッセージ入りのしおりが挟まった絵本50冊をお届けしました。



■ 東京本社で献血と骨髄バンクドナー登録会を実施

6月28日の東京本社献血では、申し込み者数129名の方々に献血にご協力いただきました。また、骨髄バンクドナー登録では14名の登録がありました。

7月の活動

■ 第2回 さいたま農村ボランティア（田んぼの草取り）

7月3日、さいたま市で今年2回目の「農村ボランティア」が行われ、伊藤忠グループ社員とその家族、30名が参加しました。今回は、前回苗を植えた水田に入り、全員で泥だらけになりながら草取りをしました。除草剤を使っていないため、稲をきちんと育てるために草取りが必要になります。次回はよいよ稲刈りです。



■ 被災した子供たちへ野球道具を寄贈&野球教室を開催

伊藤忠商事の相互会野球部では、岩手県陸前高田市の少年野球チームに野球の道具を贈るなど、被災した子供たちへの支援を行ってきました。7月2、3日の週末は野球部が所属する「10商社野球リーグ」の精鋭約20名にて、福島県いわき市の小中学生約150名を対象にした野球教室を開催しました。



■ 新入社員が地域清掃活動に参加（1回目）

7月7日、青山二丁目町会が実施する清掃活動に、2011年度新入社員25名が参加しました。社員はお揃いのウィンドブレーカーを着用し、町会、港区、赤坂警察署、近隣企業の皆さんと一緒に、ゴミ拾い、違法駐輪への警告、横断歩道での歩行者の誘導などを行いました。この活動には、今後も新入社員に交代で参加してもらう予定です。



■ 伊藤忠震災復興チャリティーコンサートを開催

7月19日、仙台市電力ホールにおいて「伊藤忠震災復興チャリティーコンサート」が開催されました。当日は伊藤忠グループの社員・家族、取引先、被災者の方々など約1,000名が来場し、ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルによる演奏を堪能されました。当日、ご来場の皆様にご協力いただいた募金は全額「仙台キワニスクラブこども基金」へ寄付いたしました。



■ 東日本大震災における社員ボランティアへの支援を継続

伊藤忠商事は、東日本大震災の発生に対し、義援金や救援物資の送付などの会社としての支援に加え、ボランティア活動を希望する社員の支援も行っています。7～8月にかけては、東京から「企業人ボランティアプログラム」へ11名、関西経済連合会が募集するプログラムへ3名の社員が参加しました。



9月の活動

■ 新入社員が地域清掃活動に参加（2回目）

9月1日、青山二丁目町会が実施する清掃活動に、2011年度新入社員19名が参加しました。今回も町会、港区、赤坂警察署、近隣企業の皆さんと一緒に、歩道の草取り、違法駐輪への警告などを行いました。特に歩道の草取りは暑い中全員が汗だくになりましたが、町会の方々と協力して効率良く作業が進みました。



■ 伊藤忠奨学生懇親会と環境保全ボランティア活動を実施

9月10日、伊藤忠商事が奨学金を支給する日本の大学で学ぶ留学生52名が東京本社に来社し、ワークショップと伊藤忠社員との懇親会が行われました。翌11日には、東京港野鳥公園にて環境保全ボランティアを実施、公園のボランティアの方々と一緒に公園の海岸のゴミ拾いや干潟の整備を行いました。残暑厳しい中での作業になりましたが、奨学生同士の交流も深まり、伊藤忠商事のCSR活動を知っていただく良い機会にもなったようです。



■ 第3回 さいたま農村ボランティア（稲刈り）

9月11日、さいたま市で今年3回目の農村ボランティア活動を実施しました。社員家族やグループ会社員合計53名が、農家の方から、有機農法の重要性などのお話を聞いた後、実際に稲刈りを体験しました。農作業の大変さも実感した後のお昼ご飯は全員が何も残さずにきれいに食べました。



■ 日本赤十字社 幼児安全法講習

9月28日、東京本社にて、日本赤十字社による「幼児安全法講習」を開催いたしました。乳幼児を対象とした、子供の成長や日常生活の中で起こりうる事故などの対処方法と、AEDの使い方、また災害時の子供の手当について教わりました。



10月の活動

■ 新入社員が地域清掃活動に参加（3/4/5回目）

10月6日、及び10月17～18日、青山二丁目町会及び赤坂総合支所が実施する清掃活動に、2011年度新入社員が合計で32名参加しました。参加した日によって、ごみ拾いや駐輪自転車への警告などと活動内容は異なりましたが、基本は、町会、総合支所、赤坂警察署、近隣企業の皆さんと一緒にする地区の清掃・美化活動です。毎回多くの社員が参加するので、町会や総合支所より、期待されるとともに感謝されています。



11月の活動

■ 第3回ボルネオ植林ツアー

11月2日～7日伊藤忠グループ社員14名がボルネオ島で植林体験を経験しました。本プログラムは、150周年記念事業として始めた「ボルネオ島の熱帯林再生及び生態系保全活動」の一環として毎年行われています。参加者は、現地での植林を直接体験するだけでなく、過去2年間で植えつけられ植林が順調に成長しているのを確かめました。



■ 清掃活動

11月10日（木）新入社員が、東京本社近辺の清掃活動に参加しました。今年度よりはじめて新入社員による地域との共生活動の一環で、今回が6回目で、21人の新入社員が参加しました。

■ 青山小学校の6年生の校外授業として来社

11月25日、東京本社付近にある港区立青山小学校の6年生28名が校外授業の一環として伊藤忠商事に来ました。当社が進める太陽光発電の説明、及び屋上の施設見学、又、当社が進めるボルネオ島熱帯林再生の話聞いて、地球温暖化防止について勉強してくれました。



12月の活動

■ 第5回伊藤忠野球教室の開催

12月3日（土）神宮外苑室内球技場で障害を持っている子供たちを対象にした野球教室を開催しました。「青少年の健全育成」と「地域との共生」との観点より毎年1回開催しています。いつもはプロ野球の選手が使う室内球技場で子供たちは大喜びで、自分なりに走って、守って、打って楽しんでいました。



■ 第9回中国大学生《走近日企・感受日本》ホームステイに協力

中国大学生を招待し、1日各企業の社員自宅でホームステイしてもらうプログラムも今回で9回目。伊藤忠商事社員5名が、それぞれ大学生を受け入れ12月3～4日家族とともに交流しました。



■ 震災社員ボランティア支援

12月に2回、合計25名の伊藤忠グループ社員が陸前高田市で震災支援のボランティア活動を行いました。震災発生後9ヶ月が経過し、ボランティアの需要も復興へと移ってきましたがまだまだボランティアは必要とされています。被災者の方との交流、共同作業を通じて、参加者全員が熱い気持ちで作業に励みました。



■ 青山小学校の6年生が校外授業として来社

12月16日青山小学校の6年生が伊藤忠東京本社を訪れました。11月下旬に先生から、「将来、会社の経営者になったとしたら、どんなことをしてみたいか。」といったテーマが与えられ、子供たちが一生懸命に考え、調べた内容を発表してくれました。「これからの世界を変える」、「地球にやさしいリサイクル」、「CO₂削減新技術について」、「地球を人間を助けるーエネルギーの地産地消ー」、「CO₂の減らし方 蓄電」の5つのテーマでの発表となりましたが、何れも、子供らしさといった面を持ちながらも、大人顔負けの発想力でした。



■ 日本赤十字社による献血活動

12月19日（月）日本赤十字社による献血活動が行われ、89名が献血、2名が骨髄バンクドナー登録を行いました。毎年2回行っている活動ですが、今後も継続して行きます。

社会貢献レポート（2012年1月～3月）

1月の活動

■ 青山通りの地域清掃活動を実施

1月19日、東京本社近辺で、伊藤忠商事の1年目社員による地域清掃活動が行われました。これは2011年度より開始した新人による社会貢献活動の一環で、清掃活動は今回が9回目となります。今回は参加した16人全員が女子社員といういつもより華やかなメンバーが、寒さにもめげず、地元自治会や警察の方、他企業の皆さんと協力して清掃や啓発物配付に頑張りました。さらに今回は伊藤忠グループのシーアイ・ショッピング・サービス株式会社の13人も加わって伊藤忠グループで合計30名を超える（事務局含め）大人数での参加となり、周りの皆さんからも大いに感謝されました。拾えたごみの数よりも多くの皆さんに行動を見ていただき、東宮御所警備のおまわりさんからも「ご苦労さま」と声をかけていただきました。当日はとても寒い一日でしたが、地域の皆さんとのつながりを感じることができた温かい活動となりました。



■ 台湾取引先からの毛布を宮城県石巻市雄勝町へ寄贈

東日本大震災発生後、伊藤忠商事の台湾取引先である東部微型電機股分有限公司から救援物資として毛布約1,500枚を寄贈いただきました。熱い想いの支援でしたが、当初は国内外から大量の毛布支援があり、すぐには届けることができませんでした。震災後、初めての冬の季節を迎え、このたび、2012年1月21日及び28日の2日間において、現地で活動するNPO「一般社団法人 Sweet Treat 311」のご協力を得て、宮城県石巻市雄勝町を中心とした9ヵ所の仮設住宅施設の居住者及び在宅避難生活者の手元に温かい毛布を直接お届けすることができました。当日は伊藤忠社員もボランティアの皆さんとともに支援活動に参加しました。被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。



2月の活動

■ 「バレンタイン募金」を実施

2月14日のバレンタインデーに、伊藤忠の東京・大阪両本社で、「みんなで募金して東北の被災地に愛を送ろう！」と題する募金活動が行われました。この活動は、社員有志から「バレンタインデーやホワイトデーのための費用を、被災地の皆さんに送ろう」というアイデアから始まり全社運動に拡大したものです。

大阪本社では朝と昼、エレベーターホールやそれぞれの部署の中で、社員ボランティアが精力的に募金を集めました。東京本社では、朝一番に岡藤社長からの「寄附第1号」を弾みに、昼休みの募金活動中には多くの社員からの寄附が集まりました。今回集まった378,817円は、震災発生直後から宮城県、岩手県で復興支援活動をしている公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）に寄附し、被災地の学校活動の支援に役立てていただきます。



■ 震災社員ボランティア支援

東日本大震災支援の伊藤忠グループ社員によるボランティア活動が、2月16～19日に行われました。昨年12月から始めた伊藤忠グループとしての支援活動の3回目です。

今回も10名の伊藤忠グループ社員が、2月の寒さをものともせず、昼は岩手県陸前高田市の現場で汗を流し、夜は宮城県気仙沼市で飲食による復興支援を行いました。全員が伊藤忠グループ社員ですが、ほとんどが初めて会う者ばかりでした。でも、1日目の作業から全員がひとつにまとまり、3日間全力で頑張りました。

今後も継続して実施します。



■ 宮城県より東日本大震災への支援に対する感謝状を授与

2月21日、宮城県の若生正博副知事が伊藤忠商事東京本社を訪問され、東日本大震災発生直後から伊藤忠商事が行った支援に対して、感謝状をいただきました。当日は宮城県気仙沼市で生産活動を継続しているグループ会社のヤヨイ食品株式会社も参加し、復興に向けた現地の様子や継続支援の必要性などさまざまなお話を伺いました。また、伊藤忠グループとして定期的に社員ボランティアの派遣を続けていることについても、若生副知事より感謝のお言葉をいただきました。



3月の活動

■ 東日本大震災1周年の社内募金活動

東日本大震災から1年が経過した3月12日、13日の両日、伊藤忠商事は被災地を継続支援するという考えのもと、社内募金を実施しました。社員の関心は高く、638,171円（東京・大阪両本社分）の募金が集まりました。

募金した社員からは「震災から1年経ったが、報道を見てまだまだ息の長い支援が必要だと実感した。自分ができることを続けていこうと思う。」との声も寄せられました。

最終的な募金金額に伊藤忠商事も同額をマッチングし、被災地の復興支援に寄附する予定です。



■ 震災社員ボランティア支援

東日本大震災支援の伊藤忠グループ社員によるボランティア活動が、3月15日～18日、及び3月22日～25日の2回行われ、合計25名が参加しました。今回で4回目、5回目となる支援活動です。今回は、悪天候で行動が制約された時もありましたが、全員が力をあわせて、側溝の掻き出しなどに頑張りました。

